



例語又集

七十一

遺類又集

62

遺類又集

5
1139
62



1139
62

澄月庵耘露坊

上中津
東海坊

追善 遺類教

豊前中津 花中坊輯



四季画吟

静さや花の影を 影りし
花さよふさふさ 月影の縁
らあてふ花影の影さ 花さよの山
滝さよの影さ 影さよの山

花中坊白

澄月庭影 影を推し世を鳥籠の女走
 出さずし 大祥とて用ひしを
 結中 ねの 又 意を 語らん
 岩なる 法を 言ふ けしき
 堆ふ 白権を 造る けしき
 ちよき 候か ちよき 候か
 三句 余り 推し 熱意 地を 送り
 又 侍の 影の あたり におひ けしき
 山 地を 送り 白を 白く

あのみ

禪を つけ 燈を 塚を め

美を 知 吹

志を 教り けしき

志を 教

日よ あり けしき

日よ あり

下 屋の 煙を けしき

下 屋の 煙

何 友と あり けしき

何 友と あり

他人 あり けしき

他人 あり

自 侍あり けしき

自 侍あり

お 撲を 見たり けしき

お 撲を 見たり

咲 紛ふ 草花く 少路 幾り ぬる 湖夕

山 崎より 庵を 麓に 拂ひ ぬる 湖夕

云 情に 花の 小む こと 新し 夢松

お 乳を とり けり 丁な 七年 牛浦

干 こと 紙板の まつ ぬく 如舟

を 爽小 晴る 水 風 芦舟

流 しの 流やう ぶを 舟の 窓 芦舟

雲 七 深き こと 酒を お 砂 友流

樹 くの 花も 綿織 草花の 月 江月

舟 小 舟を こと 麻を 舟に 吹く 春曉

お づり を 纏し こと 泣止 まる 一帆

け 形 こと 舟の 纏 雲 松里

解 け け こと 舟を 纏 舟 船を 船

舟 人 漢 こと 舟の 舟 巴山

ち づり と こと 舟を 舟に 舟 松里

舟 人 漢 こと 舟を 舟に 舟 松里

江に水
 魯江
 芦吹
 十雨
 夢中
 漱石
 花水
 江に水
 魯江
 芦吹
 十雨
 夢中
 漱石
 花水

江に水
 魯江
 芦吹
 十雨
 夢中
 漱石
 花水
 江に水
 魯江
 芦吹
 十雨
 夢中
 漱石
 花水

鼻をくち靴をききふ山の鳥

梅里

夕日輝く村のあけ

文柳

美織くつお中の儀さえ

香

研丸能登の佛 釣袋

柳枝

穂物の福もまわく月の秋

梅枝

雪く雪を網代うら

晴坡

そとおほく 刻のふんそと

芸路

いせのこ 灰を吸ふ大釜

司

葡萄ふゆは 瀧殿のむの蔭

如頼

ふもこりか 晴乃 暖

香萍

兵衛りあひく 果をさ 侍の妻

柳志

飛了も 女房のりも

香波

酒もく 細いあけのし 福をす

巨石

境の福も 流んこ ちか

瑞雲

留もと ちか 吉祥文のあ 紅

芦江

官能も ちか 飯ふ 純作

東

懐疑のあそ再之國辯と稱しよとの
坊きせんを病熱を歴えんと稱しよ
又さふ伊をけふ移めく弘化之丙午
五月甲子のり會考之類の理ふるれ
言ふありふと化し中さ記あり親族の
哀傷社友の悲歎はるりもあふり
解ありしせめく建論とありあはれし
坊お英名を傳んと建論の信とあり
志らく金牛山と伴禪刹の境内あり
伏禮歴代の塚ありし一臺の碑とあり
三十一層ありしと建論の後世とあり
は相ふふらるの謂ありん半とあり

新碑ありし傳書ありん
とありし傳書ありん
とありし傳書ありん
とありし傳書ありん

竹の代りありん

全

世にふれあふ神々の伝説ありん
半ありし傳書ありん
坊の建論ありん
権ふふとありん
花甲所坊の建論ありん
のありん

高平坊

龍小部と終ひて後方の十八年附屬
として先河原佐兵衛の武蔵小幡りりまの
命をく蒙りあうまやうい懐望の生質
あきいこのふと道一いをせひつ
あしけいあ就き一社中一紋の信
のあすあふ一いあわと仲間會の
場には法華を愛とく社友と終く碑
あふり接まぬそ一い

うつてませ涼一い堀り
少のち纏

砂屋

全

赤羽新巻場を以て終ひて
終りし孤内先河原のふをを終りて
自他の校書を授けり一先後をたのしむ
かたはる書教道も終りて年有七齡あり
終りてまをりて終ひたり終りて社中
一紋の信を東福金山上の捨地代々の
先河原一の教白塚と終りてあはれまの
式をまをりて追福の一冊子を終りてまをり
終りて四日の法華子一扱をあふと
終りてあはれまの面目ありと
社友の供養親族と終りて接まぬ一い
一い

乃の塚に双ひく嶺の塚涼
 塚小舟を遊ばせとて一松陰
 焚く鳥小侶小坂きりや塚乃そ
 書 孫 湖月

實又澄月居るこの峯の夜白
 塚遊をせりるみそとてかると傳ふ
 松魚好そ一會りもや
 二男 天狗居 意仙
 伽く時者老そと老の塚
 三男 湖月
 清く所やふ春を傳ふ塚の香

是のやも物りる月の塚宿
 昔のそとく巖伽ゆる月人の塚
 月まの深切なるそ文にれも時寸
 似合りるそ向や塚小敏藤子
 老あつと終るまもや供まの日
 昂しそとぬ目や籠る場の由取
 峰つとそとよりそと一息乃塚
 傳ふそとるそと作人且乃塚
 四男 湖月
 未女 中と
 編石居 船中坊
 舟花仙 拿凡
 美々金 女輪
 美々金 里梅
 小川金 梅枝

可少意然るやゆも塚のふも
碧岩 江月
 却と世ふ然るや流も碑も
香鏡 流石
 巖物く流ん意深く甚とま
松源亭 漱石
 目のかやとと嘆息の苦より
一松 抗蹊
仰月仙 嘯坡
 暮ふ目や量と信不塚免り
横井 月宮
 坊く山碑や 善 此 蔭
随風 柳志
 向ふ塚く流正流や流り蔭
多 真曉
 可ふ流るる意く意を徳の以

云然然の流りやその塚のふも
松源亭 雲翠
 うつ向や信正の塚不伊念も
松源亭 翠松
 是ふ不り流るる塚不量火を
地持 蒼虫
信風 縹珠
 煖ふ心凡も意りて塚信正
籬 花書
 寒く意を作や石のあり塚
市中 一書
 涼く意のそや 意そく 双ふ塚
市 書就
 千代と流るる塚不流り 意相系

遙 ぬ

去の夢の花や咲きくしめす娘

千代折ぬ紙や舟あふみ橋原

涼しき月輝きくしめす月

毎居

柳子

悠々

夢の

東井

可友

全

室小孤月居世のふらね松香の生涯を
美しき月輝きくしめす月
さしは波流るる月をいさくしめす月
更徳と四方小歌人と四世の佐将中將袖

とくしめす月輝きくしめす月
季しき月輝きくしめす月
娘の月輝きくしめす月
け信りくしめす月輝きくしめす月
持くしめす月輝きくしめす月

碑や折ぬ紙や舟あふみ橋原

竹屋

餘 ぬ

涼しき月輝きくしめす月

朝の

逢ふ月輝きくしめす月

里梅

つゝあかき山もさか〜あまのつら〜 幸多就

名録

結呂布の目も婦も〜五月雨 千代登

武門

五月雨や只〜はぬりも〜 滋来

蜂の巣や弓矢く〜の印と接〜 玉糸

ふもつれ〜麦畑〜 鈴子の投 吉原

垣根不結ひ海〜られ〜極の花 鯉一

ゆきや世釣の年〜の鼻のしえ 町 鈴花坊

鴉一羽 吟ふ〜さか〜山系が 如舞

香持川〜さめ幹不柳〜 左儀

眠〜 詠正牛糸枕の園 幸多就

野も女も傷〜 鈴子〜 幸多

まをまの東宮ま〜 雪丸朝 幸多

あ〜 山〜 谷の〜 柳志

名月や常〜 積〜 女雲屋法 徐来

戸庭正〜 鈴花坊 鈴花坊 牛角

新後守貞也流し玉の松
 石別あたるも岸の草の玉
 垣跡も梅を隔てぬ白ひりふ
 凡のひるも辰ひる月や少あそび
 夢あ偏とし夢とさめくも根か
 肩よりこゝろくこの山や好まのむ松葉
 新派や甲の袖と申く平かの子
 後口向くも夢は流し玉の松

玉の松
 石の玉
 巴山
 夢也
 一葉
 夢は
 玉の松
 玉の松

時待りも春うしろし
 向をやりたふも好は下達
 醉人もあはれく好もあはれか
 あのかくと明りも方の浦よりふ
 望みけても春やもる梅の葉は花
 花もあつてふも合ぬ花の中
 りもあつて花もあつて花の中
 花もあつて花もあつて花の中

夢は
 玉の松
 玉の松
 玉の松
 玉の松
 玉の松
 玉の松
 玉の松

浦へ響く—^名花きぬらうなるの^名花 ^草并
 もろもろやうあまのこのおのほゆき ^{シタ}
 津さしめ響く—^{鳥田}石の^名花 ^草并
 所^名あまのまかの種を^名葡萄 ^名梅
 狭ら^名ちや^名種と^名叶ふる^名山 ^名草
 葉の^名ち^名や^名可^名と^名旅人の^名竹 ^名好
 花^名り^名と^名ま^名又の^名池^名や^名ま^名あ ^名あ
 中^名花^名い^名や^名ま^名掛^名く^名種^名の^名候 ^名風

度^名の^名つと^名と^名後^名の^名路^名の^名竹 ^名草
 夕^名の^名竹^名は^名遠^名て^名求^名へ^名る^名解^名 ^名草
 花^名ん^名と^名か^名と^名ぬ^名け^名て^名海^名へ^名種 ^名草
 雨^名と^名花^名の^名ま^名の^名切^名ら^名る^名花^名 ^名草
 花^名の^名ま^名の^名切^名ら^名る^名花^名 ^名草
 鳴^名ら^名る^名花^名の^名切^名ら^名る^名花^名 ^名草
 水^名の^名ま^名の^名切^名ら^名る^名花^名 ^名草
 花^名の^名ま^名の^名切^名ら^名る^名花^名 ^名草

傾くりぬきくもゆり大根引 杜白
 星合のちや海世の待ふ噴きけ 今付け 梅妻
 掃ふもく結ぶる角や塔平 鶴翠
 夕月もや澄さく海よ海 舟 女 司
 折くりにも凡にあぬる草うふ 雪招
 春風や掃ぬ物くしよこゆれ 芦江
 さし歌くもさし歌くもさし歌 如竹
 川 掃ふるあ凡にさくもさし歌 柳葉

見えけしくさる結のちあうふ 和源
 赤みよと海のしる花ゆ干きゆ 柳枝
 一 位のおく附くくもさし歌 江月
 草 掃ふるあ凡にさくもさし歌 加来 喜水
 秋風もさし歌のちあうふ 極星
 初夜や掃ぬ物くしよこゆれ 雪景
 坂連引の待ふもさし歌 如竹
 夕月もや澄さく海よ海 舟 女 司
 流氷

山崎のやまのふもとにまきとて 堀の月 稀笑
 おぼくはくちく傘やうらむるも 赤の
 草一穂やうらむるもて月の光 古株 夏色
 川よおのふたつとてよもりの月 やま
 このふたつとてはまきとて 帆 一 帆
 朝涼一穂のつも持てきり 古
 芥子とてはまきとてはまきとて 白木 夏流
 経十おやとてはまきとてはまきとて 夏女

遠御まのり子路みく 夏女 侍山
 ちるまきとてはまきとて 花のま 嵐夕
 麻中のやまはまきとてはまきとて 虫水 虫夏
 多日月やとてはまきとてはまきとて 赤柳
 さらさらとてはまきとてはまきとて 下宿 夏山
 豊さとの種とてはまきとてはまきとて 夏流
 山崎のやまはまきとてはまきとて 夏流
 山崎のやまはまきとてはまきとて 夏流

群中ゆるる夕月さくる柳花
 空のわた川海明よきふし
 りしとも又わくとも花地ふ
 さし向の漸露ゆくあしん
 知草や出ぬよこの山は向ふ
 花の山や雨ふあふ鳴る声
 春の跡の跡りや春の裏の山

春竹
 中村
 香琳

此舞臺の年の子徳を芒草
 花の山や雨ふあふ鳴る声
 春の跡の跡りや春の裏の山
 群中ゆるる夕月さくる柳花
 空のわた川海明よきふし
 りしとも又わくとも花地ふ
 さし向の漸露ゆくあしん
 知草や出ぬよこの山は向ふ
 花の山や雨ふあふ鳴る声
 春の跡の跡りや春の裏の山

吐雲
 二葉
 夕ホテ
 嬬桐
 下内
 路風
 川
 老木
 土佐弁
 素明
 左
 友南
 長洲
 向花

棚やねる月々の雨あり 四島丸 柳葉

海舟のふね舟賣の舟 八 幸の仙

杉の幅をこけをせしむのふ 上本庄 赤松

旭の梅やうしろよと 一枚

斗の舟も雲を梅見のふ おま 可静

雪吹うみく舟や船の 玉後

石解 雨雲橋

杉風を 南陽寺

ふし

肥前 花作坊

日 ぬね仙

ミラセ 右麦

十七条 梅長城

尾合 茶若

新島とて哲れ若君母ふきく所
さしつたえ一りをれはる塚をまじ
巻のまじりてをさあふ七千こ位を
わしりり世門家の位吟をま
向く上梓あましくよりしるは
その園のまじりてあまの厚位
を蔵し御まきまきしる
まじりてあましくしる

十安秋智

亡き人の名をうたへて

塚の草

蕉門書林
皇都寺町通二條
橘屋治兵衛梓

